



散歩道

令和6(2024)年9月1日発行

加西市人権啓発だより
加西市地域部人権推進課
加西市北条町横尾 1000 番地
☎ 0790-42-8727

第 28 号

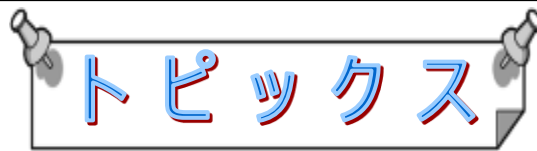
ひろげよう こころのネットワーク

兵庫県では、8月を「人権文化をすすめる県民運動推進強調月間」としています。一人一人がお互いに相手の気持ちや立場を理解し思いやる感性を磨こうとする「共生の心」を育み、日常生活の中で自然に態度や行動として表すことが文化として定着する「くらしづくり」をめざし、さまざまな人権啓発活動を展開しています。



人権文化とは、「ご高齢の方や体の不自由な方に出会ったとき、声掛けをしたり手助けをしたりすること」や「雨の日、車で歩行者のそばを通るとき、スピードを落として水がかからないようにすること」など、相手のことを大切に考えて行動することです。このような行動は、それ自体は難しいことではないのですが、日頃から人権を尊重する心がないとなかなか実行に移すことはできません。ぜひこの機会に「人権文化」について考えて行動してみましょう。

加西市では、市民への人権啓発として、去る8月4日に図書館とコラボし、人権映画会「サイサイシネマ」を開催し、「はたらく細胞」と人権啓発ビデオ「夕焼け」「バースデー」の上映をしました。また、8月18日には、「人権文化をすすめる市民のつどい」を開催し、市内の子どもたちが描いた人権ポスター優秀作品の表彰と人権講演会を催しました。講演は、北朝鮮拉致被害者の蓮池薫さんより「『夢と絆を求めて』～翻弄された運命の中で～」と題してお話をいただきました。



◆太鼓作り教室 <太鼓作り&人権講話> 7月28日(日)実施 於：善防公民館

十八代目太鼓屋六右衛門(杉本 大士) 講師の指導の下、25組の小学生と保護者が、太鼓は木や牛の皮でできていること、それぞれの命をいただき自ら命を吹き込みながら作られていること、講師自らの生い立ちと太鼓作りを継がれた理由などを聞き、太鼓作りに込められた職人の思いなどを学びました。

自分の太鼓作りでは、真剣に取り組み、力を入れて皮を引っ張ること
でよい音が出ることを感じられたのではないのでしょうか。

また、太鼓作りを祖父や父から教えられた経験を交え、周囲の人々への感謝を忘れないように、すぐ気持ちを言葉に表現することの大切さを教えて頂きました。



<アンケートから>

「力があるけど、本当の皮で作ることができて、楽しかった。」

「命の大切さについて、改めて気づいた。」

「少し前に家族で皮革業の話、差別の話をしたことがあった。もうこの時代伝える必要があるのか迷っていたが、もっと理解を深めて正しく生きていけるようにしたいと思った。お話が聞けてよかった。」



主な人権啓発事業



★「人権文化をすすめる市民のつどい」 8月18日（日）開催 （市民会館文化ホール）

人権ポスター優秀作品（下記5名の表彰がありました。）



原田彩花さん



定行海翔さん



植木月陽さん



高橋咲綾さん



杉井舞帆さん



受賞記念写真



講演では、拉致された時のことやその後の北朝鮮での生活のこと、一時帰国された際のこと、さらにはそのまま日本に残られた時のことなど、様々なつらい経験や決断をお話いただきました。また、これから先の課題についても具体的にお聞きし、今私たちにできることについて考えさせられました。

★「人権フィールドワーク」 10月11日（金）開催（行き先：徳島市 人形のムラ）参加者募集

募集期間：9月2日（月）～20日（金） 募集人数：20名（申し込み多数の場合は抽選）

身近な人権問題

人権にかかわる身近な話題を提供します



「インターネットに関する人権問題」

加西市では今年度、住民人権学習「まちかどフォーラム」において学習テーマを「ネット社会における部落差別と人権」として学習会をすすめています。

現代社会におけるインターネットは利便性が高く、誰もがいつでもどこでも様々な情報を入手できるだけでなく、SNSや動画投稿サイトなどを通して自由に意見表明できるのが特徴です。

一方で、インターネット上では他人からの評価が自分の評価と誤認し、部落差別・外国人差別といった偏見や差別を助長するような情報を発信する行為が見られます。ときに投稿者自身も第三者から誹謗中傷を受けることもあります。また一度公開された情報は、インターネット上で次々にコピーされ、これを回収することは事実上不可能であり、これらは現在深刻な人権問題となっています。

令和5年度に兵庫県と（公財）兵庫県人権啓発協会が、人権問題に対する県民の意識や動向を把握することを目的とした「人権に関する県民意識調査」を実施しました。その結果、インターネットによる人権侵害で特に問題があると思う回答項目は「他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現を掲載すること」（69.8%）でした。このことは、かなり多くの人々が日常的にSNS等のインターネット上で、誹謗中傷や差別的な表現を目にしていると考えられます。

情報の取得や発信の容易性、匿名性等から、インターネット上ではややもすれば道徳観や罪悪感が希薄になりがちです。しかしながら、実のところ匿名性はなく、発信者はすべて特定できるそうです。

私たちは、「誰もが被害者にも加害者にもなり得る」ことをしっかり認識し、これまで以上に個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深め、一人ひとりが情報の取得・発信における責任やモラルを持つことを心がけていかなければなりません。

※人権啓発の各事業等は、加西市ホームページに掲載しています。

（トップページ→「市政」→「まちづくり」→「人権」へ）

※表題「散歩道」という名称は、平成13（2001）年度まで人権啓発冊子で使用されていました。